

第95回 獣医学セミナー

国内で新規に確認された 淡水魚の微胞子虫症

柳田哲矢 先生
(寄生虫学研究室)

2024年 7月 10日 (水) 17:00-18:00

iCOVER1階 101

微胞子虫は多様な生物の細胞内に寄生する微小な寄生生物で、1-10 μm 程度の胞子を形成する。獣医領域ではウサギのエンセファリトゾーン症やミツバチのノゼマ病の原因として知られるが、魚類の重要な寄生虫でもある。魚類微胞子虫は160種以上が報告されており、国内外で養殖漁業に被害を及ぼしている。しかしながら、生活環が不明なものも多く、対策を講じる上での障害となっている。我々は近年、実験動物、観賞魚、養殖魚として飼育される淡水魚（メダカ、ヤマメ、ニジマス）において、国内未報告の微胞子虫症を立て続けに経験した。本セミナーでは、これらの症例を通して得られた魚類微胞子虫の生活環に関する新知見や、微胞子虫症を研究する上での課題について紹介する。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★
連絡先：羽原（5909）、吉寄（5890）

